

(3) 天候に関する伝承・諺（予報関係）の調査結果

天候に関する伝承・諺については、採録した内容を、動植物、風、雲、光や明るさ等の気象、季節、地名等が関係するもの等に分けて整理をした。

なお、以下、天候その他の伝承・諺は、採録集落数（割合）に応じて次のとおり表示をした。

表示	採録集落数（割合）	説明
	62～69 集落（90%以上）	全域 又はほぼ全域
	20～61 集落（30%以上～90%未満）	広い範囲
	4～19 集落（5%以上～30%未満）	一部の地域
	3 集落以下（5%未満）	極一部の地域又は集落
表示なし	地名等が関係する地域的なもの 分布状況を調べていないもの	

動物に関するもの

1) 哺乳類（計4種、5項目で採録）

ア 山の動物

- ・ 山から動物がいなくなると大雨が降る

イ ネコ

- ・ ネコが耳をこさす（又は まわす、搔く、なでる）（＝前足で耳の後ろから搔く）と雨
- ・ ネコが高い所（又は 屋根、木）に登ると雨
- ・ ネコが顔を洗う（又は 鼻をこする）と雨
- ・ ネコが西（を）向いて尾を回すと雨
- ・ ネコが草を食べると雨
- ・ ネコの鼻が湿ると雨
- ・ ネコがお辞儀をすると雨

ウ サル

- ・ サルが出てくると雨（が近い）
郡内では山辺の地域でのみ採録し、もともと獵師の言葉とみられる。

エ イノシシ

- ・ イノシシが荒びると雨（が近い）

オ ウシ

- ・ ウシが鼻に糞を通す（又は 口蓋刺す、口蓋通す、小鼻を通す）と雨（が近い）
「ウシが鼻かんざしする（＝鼻に糞を通す）と雨（が近い）」（山女原）

2) 鳥類（計8種、10項目で採録）

ア 鳥一般

- ・ 鳥が低い所に巣を作ると嵐が来る（又は 多い）、高い所に作ると嵐が来ない（又は 少ない）

イ トビ

- ・ トビが日和を上げる（＝高く飛び舞う）と晴れ
「トビが高く飛ぶと日和が良くなる」（山女原、山中）

ウ キジ

- ・ キジが鳴くと晴れ
- ・ キジが鳴くと雨（又は 日荒れする）

エ ハト

- ・ ハトが鳴くと雨（が近い）
- ・ ハトが鳴くと晴れ

オ フクロウ

- ・ フクロウが（夜（又は 夕方））に鳴くと雨（が近い）

- ・ フクロウが(夜(又は 夕方))に鳴くと天気
フクロウは郡域で「コロスケ」「ゴロスケ」「ホロスケ」としても採録
- カ ヒバリ
 - ・ ヒバリが高い所を飛ぶと晴れ
- キ ツバメ
 - ・ ツバメが低い所を飛ぶと雨(又は 天気が崩れる)
 - ・ ツバメがよく飛ぶと雨
ツバメは郡域で「ツバクロ」「トバ」「トバクロ」としても採録
- ク スズメ
 - ・ スズメが朝にチュンチュン鳴くと晴れ
 - ・ スズメが水浴びすると雨(が近い)
 - ・ スズメが集まる(又は 集まってよく鳴く)と雨(が近い)
 - ・ スズメが軒の下に来ると雨(が近い)
 - ・ スズメの餌合いが忙しいと雨(が近い)
 - ・ スズメが土浴びすると雨(が近い)
- ケ カラス
 - ・ カラスが水浴びすると雨(が近い)
 - ・ カラスが土浴びすると雨(が近い)
 - ・ カラスがよく鳴くと雨(が近い)
 - ・ カラスがおさき(=山の頂上)で寝ると雨が降らない、ほらへ入って寝ると雨
 - ・ カラスが騒ぐと雨(が近い)
 - ・ カラスが鳴くと風が出る
 - ・ カラスが低い所に巣を作ると嵐が来る、高い所に作ると嵐が来ない
- コ ホーホードリ・ホイホイドリ(種別不明)
 - ・ (夜)ホーホードリが鳴くと雨(が近い)
 - ・ (夜)ホーホードリ(又は ホイホイドリ)が鳴くと天気

3) 爬虫類(計2種、3項目で採録)

- ア ヘビ一般
 - ・ ヘビが木(又は 高い所)に登ると雨(が近い)
 - ・ ヘビが(たくさん)出てくると雨(が近い)
 - ・ ヘビが茶園の上にいると雨(が近い)
 - ・ ヘビは雨前に背中を干しに出てくる
「ヘビがたくさん出てくると日和が変わる」(山女原、山中)
「田の畔にヘビが多いと雨(が近い)」(山中)
ヘビは郡域等(県内)で「クチナワ」としても採録
- イ アオダイショウ
 - ・ ヘビが家(の中)に入ってくると雨(が近い)
- ウ マムシ
 - ・ マムシが低木の上(又は 高い所)にいると雨(が近い)
 - ・ マムシが稲穂の上に(とぐろを巻いて)いると雨(が近い)
「マムシが干し木の上にいると雨(が近い)」(水沢)
マムシは郡域等(県内のみ)で「マブシ」としても採録

4) 両生類(計4種、5項目で採録)

- ア アカハライモリ
 - ・ イモリが浅瀬で赤い腹を見せたら曇り又は雨

- ・ イモリが水にもぐっていると晴れ
- イ カエル一般
 - ・ カエルが鳴くと雨(が近い)
 - ・ カエルが水に飛び込むと雨、丘に上がると晴れ
- ウ アマガエル
 - ・ アマガエルが鳴くと雨(が近い)
 - ・ アマガエルが家に入ってくると雨(が近い)
 - ・ アマガエルが木(又は 高い所)に登ると雨(が近い)
- エ トノサマガエル
 - ・ カエルが家(の中)に入ってくると大降りする
- オ ウシガエル
 - ・ ウシガエルが鳴くと雨(が近い)

5) 魚類(計4種、2項目で採録)

- ア オイカワ・カワムツ
 - ・ (夕方に)魚が水面でたくさん跳ねると雨(が近い)
「魚が水面でたくさん跳ねると晴れ」(三宅)
- イ コイ、フナ等
 - ・ 魚が水面でぱくぱくすると雨(が近い)(又は 天気が変わる)

6) 昆虫類(計14種、16項目で採録)

- ア トンボ一般
 - ・ 夕方にトンボがたくさん飛ぶと(明日は)晴れ
 - ・ トンボが家(の中)に入ってくると雨(が近い)
 - ・ トンボが多いと雪が早い
「トンボが高い所を飛ぶと日和が続く」(山中)
- イ オニヤンマ
 - ・ ヤマトンボが家(の中)に入ってくると雨(が近い)
- ウ セミ一般
 - ・ セミが鳴き始めると照ってくる
- エ ツクツクボウシ
 - ・ ツクツクボウシがよく鳴くと暑くなる(又は よく日が照る)
- オ ワタムシ
 - ・ ワタムシが飛ぶと天気が崩れる(又は 雨が近い)
 - ・ ワタボウシが飛ぶと雨が近い
- カ カメムシ
 - ・ カメムシが多いと冬が寒い
 - ・ カメムシが多いと雪が多い
 - ・ カメムシが多いと雪が早い
 - ・ カメムシが家(の中)に入ってくると冬が寒い
「カメムシが多いと冬が暖かい」(楠原、楠平尾、三宅)
- キ コガネムシ
 - ・ コガネムシが多いと冬に雪が多い
- ク ホタル
 - ・ ホタルが家(の中)に入ってくると雨が近い
- ケ ハチ
 - ・ ハチが低い所(又は 軒下)に巣を作ると嵐が来る(又は 多い) 高い所に巣を作ると嵐

が来ない(又は 少ない)

- ・ ハチが高い所に巣を作ると雨が多い
- ・ ハチが高い所に巣を作ると雪が多い

コ アリ

- ・ アリが行列を作ると雨(が近い)
- ・ アリが穴に入る(又は アリの列がなくなる)と雨(が近い)
- ・ アリの動きが早いと雨(が近い)
- ・ アリが(巣の)入口近くに土を出すと雨(が近い)
- ・ アリが家(の中)に入ってくると雨(が近い)

サ ユスリカ

- ・ 蚊柱が立つと雨(が近い)

シ メマトイ

- ・ ブトがたくさん飛ぶと雨(が近い)(又は 天気が崩れる)
メマトイは郡域で「ブト」のほか「メセセリ」「ガンツブシ」「メツブシ」等としても採録

ス 細かい虫(メマトイ等)

- ・ (外で)細かい虫がたくさん飛ぶと雨(が近い)
- ・ 軒下で細かい虫がたくさん飛ぶと雨

セ トビゲラ

- ・ トビゲラがたくさん飛ぶと雨(が近い)

ソ アゲハチョウ類

- ・ カミナリチョウチョががたくさん飛んでくると雷が来る(又は 天気が崩れる)

タ モンキチョウ・キチョウ等

- ・ キーチョウチョが目立つと雨(が近い)

7) その他

ア クモ

- ・ クモが(夕方に)(外で)巣を作る(又は 張る)と(明日は)天気
- ・ クモが高い所に巣を作ると風が吹かない
- ・ クモが木の下に巣を作ると雨が多い
- ・ クモが巣を作らない(又は 張らない)と雨(が近い)
- ・ クモが巣からいなくなると雨(が近い)
- ・ クモの巣が多い年は日照り
- ・ クモが(外で)巣を作ると(明日は)雨
- ・ クモが巣を作り、逆さになって降りてくると雨(が近い)
「クモが家(の中)に入ると雨(が近い)」(高野尾)
「クモが外に巣を作ると梅雨明けが近い」(山田)

イ ムカデ

- ・ ムカデが家(の中)に入ってくる(又は ムカデが出てくると雨(が近い)
- ・ ムカデの足が赤い(=赤く見える)と天気、白い(=白く見える)と雨(が近い)
- ・ ムカデが木に登ると雨(が近い)
ムカデは郡域で「ムカゼ」としても採録

ウ ゲジ

- ・ ゲジ(ゲジ)が(たくさん)出てくると雨(が近い)

エ ダンゴムシ

- ・ ダンゴムシが(たくさん)出てくると雨(が近い)

オ ミミズ

- ・ ミミズが(たくさん)出てくると天気が悪くなる

- ・ ミミズがたくさん出てくると日照り
- ・ ミミズが鳴くと天気が悪くなる
ミミズは郡域で「メメズ」としても採録

カ フトミミズ

- ・ ヤブミミズが出てくると雨(が近い)

キ カタツムリ

- ・ デンデムシが出てくると雨(が近い)
「デンデムシが上へあがると雨(が近い)」(高野尾)

ク ナメクジ

- ・ ナメクジ(ラ)が出てくると雨(が近い)

植物に関するもの

1) 茶の木

- ・ お茶の実が多いと雪が多い

風に関するもの

1) 東風

ア 東風一般

- ・ なみ風が吹くと雨(又は 天気が崩れる)
- ・ 沖風が吹くと雨(又は 天気が崩れる)
- ・ なみ風は雨のおばさん(=東風が吹くと雨が近い)
- ・ なみ風は雨の誘い
- ・ 沖(=沖風)が勝つと雨

イ 春の東風

- ・ 春のわかなみ(は天気)

2) 西風

ア 西風一般

- ・ 西風が吹くと天気

イ 梅雨時期の西風

- ・ せつの西風、雨のおば(さん)(=梅雨に西風が吹くと雨が近い)
- ・ せつの西風、雨迎え(= ")
- ・ せつの西風、雨のはな(= ")
- ・ せつの西風、雨近し(= ")
- ・ せつの西風、雨呼び(= ")
- ・ せつの西風、その日の雨(= ")
- ・ せつの西風、雨起こし(= ")
- ・ せつの西風、雨ごい(= ")
- ・ せつの西風、雨のこい(= ")
- ・ せつの西風、雨を呼ぶ(= ")
- ・ せつの西風、日を問うな(= ")

雲に関するもの

1) 雲の移動

ア 東への移動

- ・ くだり雲は晴れ
- ・ 雲が東に下がると西風が強くなる

「宮くだりはのぼるより(天気が)悪い」(山田)

「雲が東へ行くと晴れ」(山女原、山中、柘植)

イ 西への移動

- ・ 雲が(西に)のぼると雨(が近い)
- ・ のぼり雲は雨、くだり雲は晴れ
- ・ 東(又は 沖)から黒い雲が来る(又は のぼる)と大雨
- ・ 東から三角雲が来る(又は のぼる)と大雨

「なみの雲が(東の)山にかかると雨」(山女原、山中)

鈴鹿郡では西に鈴鹿山脈があり川上となるとともに、都であった京都があることから、西向きへの移動を「のぼる」という。

ウ 南への移動

- ・ 雲が南へ行くと雨が降らん

エ 北への移動

- ・ 雲(又は のぼり雲)が北渡りする(又は 北へ行く(又は のぼる))と雨
- ・ のぼり雲が北渡りすると天気 <秋>
- ・ 南からの黒い雲が北へ抜けると大雨
- ・ 雲が北へのたると雨
- ・ 雲が北のぼり(=実際には北西方向への移動)すると雨

オ 土用の時期の西への移動

- ・ 土用のすらのぼり(=土用の時期の薄い雲の西への移動は雨が降らない)
- ・ 土用のぼり、寒くだり(=土用の時期ののぼり雲、寒の時期のくだり雲は晴れ)
- ・ 土用のぼり(=土用の時期の雲の西への移動は雨が降らない)
- ・ 土用ののぼり雲(= ")
- ・ 土用のすらのぼり、雨向かわず(= ")
- ・ 土用のすなけぶり(= ")
- ・ 土用雲(= ")
- ・ 「土用のさきのぼり」(= ")(福德)
- ・ 「土用のたかなみ」(= ")(山女原、山中)

2) 東(=沖)の空(の雲)

- ・ 東(又は 沖)が曇る(又は どんとしている、くすぼる)と雨(が近い)
- ・ 東に土手(=帯状の黒い雲)ができる(又は 雲がのたると雨(が近い))
- ・ しもがつかえてくる(=東の空が雲でいっぱいになる)と雨
- ・ 東(又は 沖)に水雲(=白い雲)ができると雨が来る
- ・ 沖に雲がつかえると風が出る

3) 北の空(の雲)

- ・ 北が暗いと雨

4) 西の空(=山にかかるとの雲(鈴鹿山脈等との関係))

ア 山にかかる雲一般(霧、霞を含む)

- ・ 西の山が暗くなる(又は 隠れる、に雲がかかる)と雨
- ・ 西があく(=西の山が見えてくる)と天気になる
- ・ (低い)山に(東からの)雲がつかえると雨
- ・ 山がくすぼると雨
- ・ 西の山に窓があく(=雲に覆われた山と山の谷の部分から光が漏れる状態となる)と雨
- ・ 低い雲が山にのたるとも雨が降らない

- ・ 西の山に雲がかかると風が吹く
- ・ (雨降り)で西(の山)がすいたら (= 見えてきたら) 天気になる
- ・ 山に霧がかかると雨
- ・ 山から霧が上がる (= 山が見えてくる) と日和になる
- ・ 山から霞 (又は 雲) に上がっていく (= 山が見えなくなる) と雨が近い
- ・ 山の霧上がりがいいと晴れ
- ・ 雨降り)で山に霧 (又は 雲) がかかってくるとやがて晴れ
- ・ 山から霞が上がり山が見えてくると雨が近い
- イ 山並みを覆う黒い雲
 - ・ 西の山 (に雲) が土手つく (又は 土手ひく、どえがでできる、雲がのたる) と (西) 風が吹く
 - ・ 西の山 (に雲) が土手つくと雨
 - ・ 西の山 (に雲) が土手つくと時雨れる
 - ・ 西の山に土手雲がかかると (西) 風が吹く
 - ・ 西の山に土手雲 (又は 山雲) がかかると雨
- ウ 山の上に浮かぶ雲
 - ・ 西の山の上に笠 (雲) ができると (西) 風が吹く
 - ・ 西の山の上に笠雲ができると雨 (が近い)
 - ・ 西の山の上に風雲 (: かざぐも) ができると (西) 風が吹く
 - ・ 西の山の上に風雲ができると雨 (が近い)
 - ・ (雨があがって) 西の山に雲がのぞくと (西) 風が吹く
 - ・ 西の山の上に雲が浮くと (西) 風が吹く
 - ・ 西の山の上に小さな雲が浮かぶと天気
 - ・ 西の山の上に猿の雲 (= 猿の形の雲) が出ると風が出る (又は 寒くなる) < 秋冬 >
- エ 山の中腹にかかる雲 (頂上と裾が見えて傘状となる)
 - ・ 西の山に傘雲がかかると 2、3 日内 (又は 近いうち) に雨
 - ・ 西の山に傘雲がかかると風が吹く
- オ 山裾に低く垂れこめる雲
 - ・ 西の山に眉毛雲 (: まゆげぐも) がかかると雨
 - ・ 西の山にだるまの眉毛がかかると雨
 - ・ 西の山にだるま雲がかかると雨
 - 「東の山にえべすさん眉毛雲が出ると雨」(山中)
 - 「東の山に眉毛雲がかかると雨」(山女原)
- カ その他 (集落の位置上、東側に位置する鈴鹿山脈等にかかる雲)
 - ・ 東 (の山) が明るい天気
 - 「東の山に雲がかかると雨」(山女原、山中、柘植)
 - 「東の山がすいて見ると日和が続く」(山女原、山中)
 - 「西が明るくなると晴れ、東 (= 山) が曇ると雨」(柘植)
 - 「東の山がどんよりとなると雨が近い」(福德)

5) その他の雲

ア 巻雲

- ・ まき雲が出ると雨 (又は 天気が変わる)
- ・ すじ雲が出ると雨
- ・ すじ雲が出ると曇ってくる

イ 巻積雲

- ・ いわし雲 (又は うろこ雲) が出ると雨 (が近い)

- ・ いわし雲（又は うろこ雲）が出ると天気（又は 雨が降らない）
- ウ 高積雲
- ・ ひつじ雲が出ると2、3日後に雨
- エ 積乱雲
- ・ 西（又は 南西）に入道雲（又は 立ち雲、雷雲、夕立雲）が出ると夕立（又は 雨）が来る
 - ・ 東（又は 北東）に入道雲（又は 立ち雲、雷雲）が出ると天気（が続く）<夏>
 - ・ 北に入道雲が出ると天気
 - ・ 沖（=東）に立ち雲が出ると天気が悪くなる
 - ・ 東に立ち雲が出ると嵐
 - ・ 北東に雷雲が出ると寒くなる
 - ・ 雷雲が重なると雨
 - ・ 入道雲が（東に）出ると梅雨明け（又は 夏）
 - ・ 北に入道雲が出るとせつが明ける
「南に入道雲が出ると夕立が来る」（山中）
- オ その他
- ・ ほうき雲が出ると（二日後に）雨
 - ・ 庇雲（：ひさしぐも=空が暗くなり、家の庇近くまで降りてくる雲・霞）が出ると雨が近い
 - ・ 夕方に東から西に向かい筋状の雲（=西は太く、東に行くに従い細い雲）が出ると「タツが水あげとるで天気が変わる」と言った

光や明るさに関するもの

1) 月と月の暈（かさ）

ア 月

- ・ 三日月がぶっちゃける（=立つ、又は欠けた部分が下になる）と（大）雨、三日月が受ける（欠けた部分が上になる）と晴れ
- ・ 三日月が受ける（又は 仰向く）と雨、ぶっちゃける（又は 下向く）と晴れ
- ・ 三日月が受けると雨が続き、立つと雨が少ない
- ・ 三日月が受けると天気が悪い
- ・ 月が焼ける（=黄色く、又は少し赤く見える）と（日）照りが続く
- ・ 黄金月（：こがねづき）になると照りが続く
- ・ のぼり月（=新月 満月）は天気の良い日が多いが、くだり月（=満月 新月）は天気の悪い日が多い

イ 月の近くの星

- ・ 月の近くに星が来ると雨が近い

ウ 月の暈

- ・ お（っ）月さんが暈をさす（又は かぶる）と雨（又は 天気が崩れる）
- ・ お（っ）月さんが輪（を）かくと雨（又は 天気が崩れる）
- ・ お（っ）月さんがお暈すると雨
- ・ お（っ）月さんがお暈めすると雨
- ・ お（っ）月さんがお暈さすと雨
- ・ お（っ）月さんがお暈をかぶると雨
- ・ お（っ）月さんがお暈むりしていると雨
- ・ お（っ）月さんが暈をかぶると三日のうちに雨になる
「お（っ）月さんのぐるりがほけると雨」（山女原）

エ 月の暈の中に星が入る場合

- ・ お(っ)月さんの量の中に星が入ると破れがさ(又は 日がさ)で天気になる(又は 雨が降らない)
- ・ お(っ)月さんの量の中に星が入ると天気がさで雨が降らない(又は 2、3日後に雨が降る)
- ・ お(っ)月さんの量の中に星が入ると破れがさで(大)雨が降る
- ・ お(っ)月さんの量の中に星が入ると雨が早い
- ・ お(っ)月さんの量の中に星が1つ入ると1日後、2つ入ると2日後に雨が降る

2) 月と太陽との関係

ア 日食

- ・ おひさんの中にお(っ)月さんが入ると天気

イ 月の量と太陽の量

- ・ 月に雨がさ、日に日(和)がさ
- ・ 月に雨がさ、日に日がさなし
- ・ 月に降りがさ、日に照りがさ
- ・ 月の雨がさ、日に日照りがさ
- ・ 月に雨なし、日に日照りなし
- ・ 月に日がさなし
- ・ 月がさ、雨がさ、日がさ
「月に雨がさなし、日に日がさなし」(山田)

3) 太陽と日差し

ア 太陽の量(かさ)

- ・ おひさんが量をさす(又は かぶる)と雨(又は 天気が崩れる)
- ・ おひさんが輪(を)かくと雨(又は 天気が崩れる)
- ・ おひさんが量をさす(又は かぶる)と晴れ
- ・ おひさんが量をさす(又は かぶる)と三日のうちに雨になる
「おひさんが量をさす(又は かぶる)と大雨」(山田)

イ 午前10時頃の一時的な日差し

- ・ 四つにっこり、ババだまし(=午前10時前後の一時的な日差しはしばらくすると雨になるということ。またその日差しに騙されて老婆が干した洗濯物等が雨に濡れてしまうことを言う。)
- ・ 四つにっかり、ババだまし
- ・ 10時にっこり、ババだまし
- ・ 10時のにかにか、ババだまし、(みつぼ(=3粒)の雨も降らんためしなし)
- ・ ババだまし
- ・ 四つ日光(に)、ババだまし
- ・ 四つにっこり
- ・ 10時日光、ババだまし
- ・ 四つにっこりにその日の雨
- ・ 四つにっこりに傘を離すな
- ・ 四つにっこり、ババ泣かし
- ・ 四つにっかりに日を問うな
- ・ 四つにっかり、ジジだまし
- ・ 四つにらみ、ババだまし
- ・ 10時にっかり、ババだまし
- ・ 朝にっこりのババだまし

- ・ につきり、ババだまし
- ・ 10時のババだまし
- ・ 朝につきり
「10時につきり」(柘植)

ウ 朝焼け(日の出時)

- ・ 朝焼けは雨(又は 天気が崩れる、良くない)
- ・ 沖(又は 東)が明るいのは良くない(又は あてにならない)
- ・ 茜(:あかね)さすと天気が変わる
- ・ 東の空が明るいのは雨のおばさん
- ・ 朝焼けは雨のおばさん
- ・ 朝焼けはその日の雨
- ・ 東が焦がれると雨
- ・ 朝焼けに川越しするな
- ・ 朝焼けに橋を渡るな
- ・ 早い茜(:あかね)は天気が崩れる
- ・ 東につきり、あてらなず
- ・ 朝日の焦がれはその日の雨
- ・ 朝茜(:あさあかね)は雨
「東の空が焼け過ぎるとよくない(=雨が降る)」(山女原)

エ 夕焼け(日の入り時)

- ・ 夕焼けになると(明日は)天気
- ・ 入り日が良いと天気、悪いと雨
- ・ あかねほすと(明日は)天気
- ・ 夕日(又は 入り日)がくすんで見えると雨
- ・ おひさんが赤いと雨
- ・ 夕焼けに(明日の)日を問うな
- ・ 西の山のおひさん(=沈む夕日)が二つに見えると雨
- ・ 秋の夕焼け、鎌を砥げ
- ・ 照りが続いた後、真っ赤なおひさんが沈むと、4日後に大雨になる
- ・ 夕日が赤いと暑いに日なる
- ・ 夕方の西日が高い(=遠く小さく見える)と天気
「雲焼けすると暑い日が続く」(山中)

オ 梅雨時期の夕焼け

- ・ せつの夕焼け、雨のおばさん
- ・ せつの夕焼け、雨近し

カ 東の空の夕焼け

- ・ 夕方に東の空が赤くなると(日)照りが続く<夏>

キ 朝夕の漏れ日

- ・ 朝日に小日(:こひ=日の出時に地平線上にある細長い雲の上からこぼれる赤い日)はその日の雨
- ・ 夕日に小日(=日の入り時に地平線上にある細長い雲の上からこぼれる赤い日)は明日の雨
- ・ 夕日に小日は3日のうちに雨になる
- ・ 夕日に小日は曇り

4) 遠景

- ・ 山が近くに見えると雨(が近い)

- ・ 沖 (= 東にある海の水面) が時化ると雨 (が近い)
- ・ 沖が光ると雨 (が近い)
- ・ 沖が光ると風が強くなる

5) その他

- ・ 朝がきれいに晴れると天気が変わる

虹、雨、雷に関するもの

1) 虹関係

ア 虹一般

- ・ (西に) 虹が出ると晴れてくる (又は 雨が上がる)
- ・ 虹が出ると時雨れる (又は 天気がぐだつく)
「西に虹ができると寒くなる」(御園)

イ 朝の虹

- ・ 朝虹は雨 (又は 時雨れる)
- ・ 朝虹に川越え (又は 川越し) するな

ウ 夕方の虹

- ・ 夕虹がでると (明日は) 天気
- ・ 夕虹に水戸立てよ
「夕虹に鎌を砥げ」(楠原)

2) 雨関係

ア 雨一般

- ・ 雨が上がると (西) 風が吹く
- ・ (西) 風が出ると雨が上がる
- ・ 卯辰の雨は巳で上がる
- ・ 卯の刻雨に傘持つな (又は 傘いらず)
- ・ 6月1日に雨が降るとせつ (= 梅雨) うちに雨が深い
- ・ 月の一日 (: ついたち) に雨が降るとその月は雨が深い
- ・ 一日降りの三日降り (: ついたちぶりのみっかぶり)
- ・ 一日降りの三日降り、七日に降らんだら言うといで (又は 降らんためしなし)
類似表現多数あり
- ・ 一日降りの三日降り、四日もよう降る、五日も降る (: よっかもようふる、いつもふる)
六日に降らんためしなし、七日に降らんだら言うといで
「卯の刻雨に傘持たず」(山女原)
「なみの雨は上がらない、西雨になると上がる」(山女原、山中)

イ 一時的な雨 (にわか雨・夕立ち)

a) 夕立一般

- ・ 夕立ち三日 (= 夕立は三日続く)
- ・ 夕立ちは馬の背を分ける (= 夕立は少し場所が変われば雨の降り具合は全く異なる)
- ・ 夕暮れに夕立ちがあると翌日は天気
- ・ 夕立があると梅雨明け

b) 朝の夕立

- ・ 朝に夕立 (又は 朝立、朝夕立) が降る (又は ある) と天気になる
- ・ 朝雨は女の腕まくり
- ・ 朝夕立 (又は 朝雨) に川越え (又は 川越し) するな
「朝に夕立があると荒れる」(山女原)

3) 雷関係

ア 雷一般

- ・ 雷三日 (= 雷は三日続く)
- ・ 雷は三日目鳴ったら日癖
「西で雷が鳴ると2、3日は日和」(山女原)

イ 朝の雷

- ・ 朝雷に川越え (又は 川越し、川渡り、谷越え) するな (又は 大川を渡るな)
- ・ 朝雷に旅に出るな
- ・ 朝雷は雨のおば

ウ 夕方の雷

- ・ 夕雷に(田の)水戸(又は 畔)立てよ(又は 水戸止めよ)(=夕雷が鳴ると雨が降らないので、水が落ちないように田の水戸を閉じよ)
- ・ 夕雷に日を問うな
- ・ 夕雷に蓑をぬげ
- ・ 夕雷に傘持つな
- ・ 夕雷に日が飛ぶ (= 晴れ)
- ・ 夕雷に明日日照り
- ・ 夕雷は天気になる
「夕雷に明日の天気を問う(な)」(木田、山田、水沢)
「夕雷は日和になり、朝雷は雨」(山女原)

エ 冬の雷

- ・ 寒に雷が鳴ると大風が吹く

オ 雷の移動と鳴る方向(地名が出る伝承・諺は 地名等が関係するもの(又は地名等を使うもの))

a) 東 (= 沖) から来る雷と(西から来て) 東へ行く雷

- ・ 東から来る雷は(鳴り上がりで) 大降りになる
- ・ 東からののぼり雷は大雨
- ・ 東から来て北へ抜けていく雷は大降り
- ・ 沖から来る雷は怖い
- ・ 沖の雷は大雨
- ・ 雷が(東へ)(鳴り)下がっていくと天気になる
- ・ 西から来る鳴り下がりの雷は大降りしない
- ・ 東へのくんだり雷は天気になる
- ・ 西から来る雷は(鳴り下がり)で大雨にはならないが、東から来る雷は(鳴り上がり)で大雨が降る
- ・ 沖雷(:おきがみなり)は大雨のもと

b) 西で鳴る雷

- ・ 西(の山)で雷が鳴ると夕立が来る
- ・ 西で雷が鳴ると北回り(=来ない)

c) 南から来る雷

- ・ 南の雷は雨のおばさん
- ・ 南からの雷は怖い
- ・ 南の雷は来る
「南で雷が鳴ると夕立が来る」(高野尾、山中)

d) 北又は北東で鳴る雷

- ・ 北の雷(又は 北鳴り)は来ない

- ・ 北鳴りは乞食のよそいき (= 着たなりの乞食はこちらへ来ない)
- ・ 北雷 (:きたがみなり) に田の水戸立てよ
- ・ 北筋の雷は怖い
- ・ 雷が北から来ると雨が降る
- ・ 北雷は雪が降る (= 寒い)
- ・ 北東で光ると照り
「北東の雷は怖い」(山田)

カ 雨を伴わない音だけの雷

- ・ 空雷 (:からかみなり) は落ちる (又は 怖い)
- ・ 日雷 (:ひがみなり) は落ちる (又は 怖い)

キ 雷と季節変化

- ・ (大) 雷が鳴ったらせつ (= 梅雨) は明ける (又は (大) 雷が鳴ってせつが明ける)
- ・ 雷が鳴って東へ下がるとせつが明ける
- ・ 雷が三日鳴ったらせつが明ける
- ・ 雷が鳴って季節が変わる

ク その他

- ・ 雨が降ってくると雷が収まる

露、霧、霜、雪に関するもの

1) 露 (朝露)

- ・ 朝露が降りると天気
- ・ 朝露が深いと雨が近い (又は 天気が変わる)
- ・ 朝露が多いと3日の内に雨になる
- ・ 露上がり早いと天気、遅い (又は 悪い) と雨
- ・ 露上がり早いと雨、遅い (又は 悪い) と天気
- ・ 朝露が多いと天気

2) 霧 (朝霧)

- ・ 朝霧は晴れ
- ・ 朝に山の間から霧が出てくる (= 下流へ流れてくる) と晴れ
- ・ 霧が降りてくると雨が近い
- ・ 山の上に朝霧 (= 山並みの頂上部分に一筋の雲) がかかると天気になる

3) 霜・霜柱

ア 霜・霜柱一般

- ・ 霜が降りる (又は 霜柱が上がる) と日和に (又は めくたく) なる
- ・ 霜が降りて、ひなれてくるとめくたくなる
- ・ 初霜で天気が良いとその年の霜は天気、初霜で天気が悪いとその年の霜は天気が悪い

イ 霜又は霜柱が早く融けること

- ・ 霜折れ (又は 霜れ、霜ごれ、霜ぼれ) が早いと天気が悪くなる
- ・ 霜折れ10時 (= 霜が早く融けると午前10時に雨が降る)
- ・ 霜折れ3時 (= 霜が早く融けると午後3時に雨が降る)

ウ 大霜

- ・ 霜がきつい (又は 大霜が降りる) と雨になる (又は 天気が変わる)
- ・ 大霜が降りると天気になる
- ・ 12月6日前後に大霜があり雨が降る

4) 降雪

- ・ 細かい雪は積るがぼたん雪は積らない
- ・ 夜の雪は積るが昼の雪は積らない
- ・ 雪降り(又は 大雪)の後(又は 明日)は裸もん(=貧乏で服のない人)の洗たく(=洗濯)
- ・ 雪降り(又は 大雪)の後(又は 明日)は裸子(:はだかご)の洗たく
- ・ 雪降り(又は 大雪)の後(又は 明日)は裸脱ぎの洗たく
- ・ 雪降り(又は 大雪)の後(又は 明日)は赤子の洗たく
- ・ 雪降り(又は 大雪)の後(又は 明日)は裸の洗たく
- ・ 雪降り(又は 大雪)の後(又は 明日)は乞食の洗たく
- ・ 雪降り(又は 大雪)の後(又は 明日)は鬼の洗たく
- ・ 雪降り(又は 大雪)の後(又は 明日)は裸で洗たく
- ・ 雪降り(又は 大雪)の後(又は 明日)は肌着の洗たく
- ・ 雪降り(又は 大雪)の後(又は 明日)は裸雲(:はだかぐも)の洗たく
- ・ 雪降り(又は 大雪)の後(又は 明日)は裸馬(:はだかうま)の洗たく
- ・ 雪降り(又は 大雪)の後(又は 明日)は洗たく日和
- ・ 雪降りあげくの洗たく
- ・ 雪降りあげくの裸の洗たく
- ・ なみ雪(=なみ風が吹いて降る雪)八尺
「雪降り(又は 大雪)の後(又は 明日)は裸組の洗たく」(三宅)

音に関するもの

1) 自然の音

- ・ 沖が近い(又は 鳴る)と雨(が近い)
- ・ 海が近い(又は 鳴る)と雨(が近い)
- ・ 浜が鳴ると雨(が近い)
- ・ 浜が鳴ると嵐が来る
- ・ 沖がざわつくと天気が変わる
- ・ 南(又は 東)からの音がよく聞こえると雨(が近い)

2) 人工の音

- ・ 汽車の汽笛(又は 音)が近い(又は よく聞こえる)と雨(が近い)
- ・ (東の)電車の音が聞こえると雨が近い(、西の汽車の音が聞こえると晴れ)
- ・ 大砲(:おおづつ)の音が聞こえると雨(が近い)
- ・ 船の汽笛が近いと雨(が近い)

季節に関するもの

1) 春

- ・ 秋北春南(又は 春南秋北)(=秋は北が、春は南が晴れれば天気)
- ・ 秋北春南(=秋は北で雪が多く、春は南で雪が多い)
- ・ 三寒四温(五雨十風)
- ・ 春一番に雷が鳴ると雨が多い
- ・ 暑さ寒さも彼岸まで
- ・ 彼岸さん境でぬくたくもなり寒くもなり
- ・ 奈良のお水取りが済まんと暖かにならない
- ・ (田村さんと)お釈迦さんが済まんと暖かにならない(又は 済んだら暖かくなる)

2) 夏

ア 梅雨

- ・ せつ (= 梅雨) のうちは蓑笠離すな
- ・ 梅雨の中休み
- ・ 梅雨の長雨
- ・ 梅雨の夕晴れ (又は 梅雨の宵晴れ) (= すぐ天気が崩れる)
- ・ 梅雨の夕晴れ、天気が崩れる
- ・ 梅雨の夕だれ、朝だれ
- ・ せつは7月15日の夏祭りがすまないと明けない
- ・ せつは7月20日にならんと明けない

イ 夏一般

- ・ 日照りの朝曇り (又は 「朝曇りは日照り (又は 日和)」)
- ・ 土用の朝曇り (= 土用の朝曇りは、日中は日照りとなる)
- ・ 朝曇りは日照りのもと
- ・ 朝曇りのち、はだか (= 照ってくる)
- ・ ながせ七日 (= 夏の降ったりやんだりする雨は七日続く)
「盆ながせが来たらすぐに涼しくなる」(高野尾、三宅、御園)

3) 秋

ア 秋一般

- ・ 秋は三日で天気が変わる
- ・ 秋に三日の晴れなし
- ・ 女心と秋の空
- ・ 男心と秋の空

イ 台風

- ・ 嵐の前の静けさ
- ・ 210日は厄日 (又は 風が来る)
- ・ 210日と220日は厄日 (又は 嵐が来る)
- ・ 210日、220日、230日は厄日 (又は 嵐が来る)
- ・ 嵐が来る前は東の空が明るくなる
- ・ 嵐が来る前は辰巳 (= 南東) が光る
- ・ 嵐は南東 (又は 辰巳) から来る
- ・ 嵐は吹き返し (又は もどし風 等) が (最も) 怖い (又は 強い)
- ・ 西風 (又は 北西風、かえし風 等) が吹くと嵐も終わり

4) 冬

- ・ 寒の一粒、せつの千粒 (= 寒に雨が降れば、梅雨時期も雨が多い)
- ・ 寒に雨が降らないと夏は日照りとなる (又は 寒に雨が降れば、梅雨時期も雨が多い)
- ・ 寒の雨 (は) せつの雨 (= 寒に雨が降れば、梅雨時期も雨が多い)
- ・ 寒に1時間の雨が降ると梅雨時に3日降る (= ")
- ・ 雪が多いと夏は大雨
- ・ 寒に雪が多いと夏は日照り
- ・ 西の山に雲がかかって北西の風が吹くと雪のおばさん
- ・ 寒に暖かくなると雨が近い
- ・ 戸を揺する風が吹くと大雪

地名等が関係するもの(又は地名等を使うもの)

1) 寺社の4月の縁日との関係

鈴鹿郡の各集落では、石山観音(=石山さん)、関の観音(=観音さん)、明星山国分寺(=虚空蔵さん)、野登寺(上寺)(=野登さん)、加佐登神社(=加佐登さん)、荒神山観音寺(=荒神さん)、海山道神社(=海山道さん)、八日薬師(=薬師さん、八日さん)のうち、近隣の二つ又は三つの寺社の縁日を組み合わせ、4月の変わりやすい天候を示す伝承、諺がみられた。

- ・ 石山さん(4/15)と観音さん(4/23)はどちらかが晴れるとどちらかが雨(が降る)【古厩】
- ・ 野登さん(4/7)と石山さん(4/15)はどちらかが晴れるとどちらかが雨(が降る)【古厩】
- ・ 虚空蔵さん(4/13)と石山さん(4/15)は(仲が悪いので、)どちらかが晴れるとどちらかが雨(が降る)【沓掛ほか】
- ・ 野登さん(4/7)と加佐登さん(4/8)は(仲が悪いので、)どちらかが晴れるとどちらかが雨(が降る)(天気の結果から、晴れたら「勝ち」、雨降れば「負け」という場合もあり)【越川ほか多くの集落】
- ・ 虚空蔵さん(4/13)と野登さん(4/7)と加佐登さん(4/8)はどれかが雨(が降る)【白木、小川、椿世】
- ・ 虚空蔵さん(4/13)と野登さん(4/7)はどちらか雨(が降る)【椿世、野村・南野】
- ・ 虚空蔵さん(4/13)と八日さん(4/8)はどちらかが雨(が降る)【三寺】
- ・ 野登さん(4/7)と加佐登さん(4/8)と海山道さん(4/9)はどれかが雨(が降る)【和泉ほか】
- ・ 野登さん(4/7)と加佐登さん(4/8)、石山さん(4/15)はどれかが雨(が降る)【小野】
- ・ 加佐登さん(4/8)と海山道さん(4/9)はどちらかが雨(が降る)【高塚・加佐登、石薬師】
- ・ 荒神さん(4/7)と加佐登さん(4/8)、海山道さん(4/9)はどれかが雨(が降る)【甲斐ほか】
- ・ 荒神さん(4/7)と加佐登さん(4/8)は(仲が悪いので、)どちらかが雨(が降る)【栄・和田・川合ほか】
- ・ 加佐登さん(4/8)は雨降り神さんでよく雨が降る【住吉、高塚・加佐登】
「野登さん(4/7)と薬師さん(4/8)はどちらかが雨(が降る)」(福德)
「石山さん(4/15)はよく雨が降る」(萩原、梶原、三宅)

2) 山にかかる雲との関係

近くの山に雲がかかると雨が降るといふ伝承・諺が山辺の集落を中心としてみられた。

ア 野登山周辺

- ・ 野登山に眉毛雲がかかると雨【田村・長明寺(名越)】
- ・ 野登山が隠れると雨【井田川・小田ほか】
- ・ 朝、霧ヶ岳に雲が流れると晴れ【安坂山(坂本)】
- ・ 三ツ山に雲がかかると雨【太森】
- ・ 雨引山に雲がかかると雨が来る【安坂山(安楽)】

イ 富士山(ふじやま)・明星ヶ岳

- ・ 富士山(=虚空蔵さんの下に見える低い山)に雲がかかると雨【小野】
- ・ 明星ヶ岳に傘雲(=中腹にかかる雲)がかかると2、3日内に雨になる【小川】

ウ 鈴鹿峠周辺

- ・ 鈴鹿山が曇ると雨が降る【坂下地区】
- ・ 三子山が曇ると雨が来る【坂下地区】
- ・ 宮さん(=坂下の片山神社)に雲がかかると雨が降る【沓掛】
「高畑山に眉毛雲がかかると雨」(山女原)

エ 加太周辺

- ・ お経塚さん(=経塚山)が曇ると雨【上加太】

「からす山 (=小平山) に雲がかかると雨」(柘植)

「霊山に雲がかかると雨」(柘植)

オ 錫杖ヶ岳周辺

- ・ 雲が錫と登りをすると大降りする【越川、久我】
- ・ 雲が錫と山に向うと大雨【越川、萩原、楠平尾】
- ・ 錫と山が雲で隠れる (又は 錫と山に雲がかかる) と雨【上加太、下加太、越川、久我】
- ・ 錫杖ヶ岳に人が登ると雨が降る【加太地区】
 - 「錫とに雲が入ると大雨」(川原、楠平尾)
 - 「錫と山に霧がかかると雨」(福德)
 - 「墨塚山のザラ (=頂上) に雲がかかると雨が降る」(福德)
 - 「河内谷に雲が登ると大雨」(楠平尾)

カ その他

- ・ 亀山の上が明るいとき天気が悪い (=曇ってくる、亀山の町の上は光で明るい)【和田】

3) 南西方向から来る雨・夕立

南西方向に位置する山や谷が曇れば暫くすると夕立や雨が来るとして、その地名とともにそうした天候を示す伝承・諺がみられた。

ア 野登山より北

- ・ 瀬戸 (=水沢と大久保との間の山の谷) が曇ると夕立が来る【水沢野田】
- ・ 長坂で鳴る雷は怖い【西庄内】
 - 「鎌ヶ谷の雨は菟野へ行く (=来ない)」(山田)

イ 野登山周辺

- ・ 野登山で雷が鳴ると雨 (又は 夕立) が来る【伊船野田・新田ほか】
- ・ 野登山で2時までには雨が降ると下大久保も雨が降る、2時以降の雨は北へそれる【鹿間・下大久保】
- ・ 野登山の雷は来ない【東庄内】
- ・ いばらだん (=いばら谷) で雷が鳴ると雨が来る【安坂山】
- ・ 野登山に雲がたつと北へ逃げてく、野登山の南に雲がたつと夕立が来る【津賀】

ウ 鈴鹿峠周辺

a) 明星ヶ岳付近

- ・ 虚空蔵さんに雷が鳴ると夕立が来る【太岡寺、小川】
- ・ 野登山の雨は北向いてく、虚空蔵さんの雨は亀山に来る、錫との雨は津へ向いてく【布気】
- ・ 明星ヶ岳の雲は来ない【白木】

b) 関・鈴鹿山

- ・ 鈴鹿山に雷が鳴ると夕立が来る【菅内・樺野、汲川原】
- ・ 関山に雲がかかると雨が来る【東庄内】

エ 加太周辺

- ・ 高畑 (:たかはた) で雷が鳴ると夕立が来る【西庄内】
- ・ 加太が曇ると雷 (又は 夕立) が来る【住山ほか】
- ・ 加太ずみが曇ると夕立が来る【小野】
- ・ 加太だん (=加太谷) が暗くなると夕立が来る【白木、小川、田村・長明寺】
- ・ 加太山に雷が鳴る (又は 加太山が暗くなる) と夕立が来る【関町ほか】
- ・ 加太山に雷がしこると夕立が来る【東庄内】
- ・ ほえみそ (又は ほえみそ山、ほえんみそ、ほえぶそ) に雷が鳴ると夕立が来る【八野ほか】
- ・ ほえみその雷は来ん気遣いなし (=必ず来る)【住吉】
- ・ 加太の雷は怖い【東庄内】
- ・ 加太鳴りは怖い【小川】

オ 錫杖ヶ岳周辺

- ・ 錫と山に雷が鳴る（又は 雲がかかる）と夕立（又は 雷）が来る【関町ほか】
- ・ 錫との雷と鈴鹿の雷はかたきで重なると大雨が降る【古厩】

カ その他

- ・ ふじ山に雷が鳴ると雨の来んためしなし【菅内・樺野】
- ・ 南山（：みなみやま）が曇ると雨が来る【中庄】
- ・ 深泥（：みどろ）の山で雷が鳴ると雨（又は 夕立）が来る【下庄】
- ・ 椿世（：つばいそ）の雷に日を問うな【南小松】
 - 「不動さんに雷が鳴ると雨が来る」（楠原）
 - 「いなごに雷が鳴ると大夕立が来る」（高野尾）
 - 「布引に雷が鳴ると夕立が来る」（三宅）
 - 「三宅ずみから来る雷はえらい（＝ひどい）雷」（御園）

地名を使わずに単に方向で言う場合（ -5）-エ 積乱雲 に掲上分の一部再掲）

- ・ 西（又は 南西）に入道雲（又は 立ち雲、雷雲、夕立雲）が出ると夕立（又は 雨）が来る

4) 南西方向から必ず来るとされた夕立（雨）と土産のボタモチとを関係づけたもの

- ・ 西の夕立雲と実家のボタモチは必ず来る【深溝】
- ・ 西から来る雷、在所のボタモチ はずれるためしなし【庄野】
- ・ 二つはたの雷と嫁の在所のボタモチは来るに決まるとる【西庄内】
- ・ 野登山の雷（又は 夕立、雨）と親元のボタモチは来るに決まるとる（又は 来んためしなし）【深溝ほか】
- ・ 椿世の雷と親元のボタモチは持って来んためしなし【南小松】
- ・ 関の夕立とおばさんのボタモチはもらいぞこなし【井田川・小田】
- ・ 加太の雷、嫁の在所のボタモチ、もらいぞこなし【津賀、太森】
- ・ 加太の雷と隣のボタモチは来んためしなし【田村・長明寺（名越）】
- ・ 加太（山）の雷と親元（又は 嫁の在所）のボタモチは来んとおらん（又は 来るに決まるとる）【川崎、小川】
- ・ ほえみそ（山）の雷と親元のボタモチは来んためしなし【国府、住吉、甲斐、東庄内】
- ・ ほえみそ山の雷と親元のボタモチは食いそびれがない【平田・弓削・岡田】
- ・ ほーえんみその雷、親元のボタモチ、来んためしなし【汲川原】
- ・ 隣のボタモチと錫杖の雨は千にひとつのまちがいなし（＝必ず来る）【井尻・小下】
- ・ 錫と山の雷と親元のボタモチ、もらいぞこないがない【安知本・田茂、三寺】
- ・ 錫との雷とおばさんとこのボタモチは来んためしなし【菅内・樺野】
- ・ 経ヶ峰の雨とおばさんとこのボタモチ、来んためしなし【菅内・樺野】
- ・ ふじ山の雷とおばさんとこのボタモチ、来んためしなし【菅内・樺野】

5) その他の方向の雲、光、雷

ア 北東方向（四日市方面）

- ・ 四日市前に立ち雲（：たちぐも＝入道雲）ができると照り、伊勢裏（＝南東方向）に立ち雲ができると雨【広瀬 辺法寺】
- ・ 四日市前が赤く焼けると天気が続く【広瀬】
- ・ 多度裏で雷が鳴ると天気が続く【伊船野田・新田、伊船・長沢】
- ・ 信濃雷、鍋釜割れる【南小松】

イ 北西方向

- ・ 美濃裏（＝美濃方向）が明るいと晴れる【伊船・長沢】

ウ 南東方向（伊勢方面）

- ・ 伊勢裏に雷が鳴ると雨が降る【三寺、川崎、太森】
- ・ 伊勢裏に雷が鳴り下がると時化が続く【田村・長明寺】
- ・ 御神前（：ごしんまえ = 伊勢神宮）に雷が鳴ると雨が来る（又は 大きな雷が来る）【国府】

6) 雪

- ・ 入道さん（ = 入道ヶ岳 ）の上から徐々に雪が下がってくると大雪【大久保】

7) その他

ア 他地域との比較

- ・ 美濃の夕立ち（に）伊勢日照り（ = 美濃が夕立でも伊勢では日照り ）【小野ほか】
- ・ 雨の土山、坂は照る照る、鈴鹿は曇る【会下】

イ その他

- ・ 宮さん（ = 坂下の片山神社 ）の上（ = 旧東海道 ）を霊柩車が通ると大降りする【沓掛】
- ・ 峠（ = 鈴鹿峠 ）を死人（：しびと）が通ると雨が降る【小野】

その他

1) 体調・病気等で体が知らせるもの

- ・ ほとる（又は 蒸し暑くなる）と天気が変わる（又は 夕立が来る）
- ・ リュウマチや神経痛の人は天気がわかる
- ・ 腹の具合が悪くなると雷が来る（又は 鳴る）
- ・ 腹がにやにやすると雷が来る（又は 鳴る）
- ・ 腹がによによすると雷が来る（又は 鳴る）
- ・ 腹がにごにごすると雷が来る（又は 鳴る）
- ・ 腹がたおたおする（又は たおつく）と雷が来る（又は 鳴る）
「腹がにがにがすると雷が来る（又は 鳴る）」（木田）
「腹がおねおねすると雷が来る（又は 鳴る）」（柘植）

2) 地震

- ・ 地震のいった時刻により「4 つ日照り（：よつひでり）、5、7 の雨（：ごひちのあめ）、6、8 の風（：ろくはのかぜ）、9 は病（：くはやまい = 曇り）（集落によっては、「4、6 の風、5、7 の雨、8 日照り、9 は病）」と言った
- ・ 地震がいると天気が変わる

3) 暦（彼岸、八専）

ア 彼岸

- ・ 彼岸の入りに天気が悪いと彼岸のうちだめ
- ・ 彼岸の入りに天気が悪いと中日（さん）は良く、彼岸の入りに天気が良いと中日（さん）は悪い
- ・ 彼岸（の中日）さんは天気が悪い（又は 良くない）（ = 曇りの天気 ）
- ・ 彼岸さんには雨が降らない
- ・ 彼岸は半分天気で半分雨
- ・ 春の彼岸に荒れると秋も荒れる
- ・ 春の彼岸が雨だとその年は雨が多い
- ・ 彼岸に雨が降らんと照りが続く
- ・ 春の彼岸は天気、秋の彼岸は天気が悪い

イ 八専

- ・ 八専八日まび(又は まぶ)四日(=八専の間は天気の良いのは4日間だけ)
- ・ 八専の入りに天気が悪いと続く
- ・ 八専は天気が悪い
- ・ 八専の2日目に雨が降ると八専うち雨
- ・ 八専、8月、8日降る
- ・ 照り入り八専、降り八専、降り入り八専(又は 入り降り八専) 照り八専

4) その他

- ・ 照る照る坊主を吊るすと天気になる
- ・ 履物を投げて緒が上になると天気(、逆さまになると雨)
- ・ ふんどしが湿ると雨
- ・ 六尺ふんどしを回すと雨が降る
「柊の葉を12枚置いて(=12の月に見立てる)それを焼き、早く焼けた月は雨が多い」(山中)